

火傷の処置法を知っていますか？

苦痛除去、感染防止、ショック処置の三点が必要である。

軽傷

火傷面積が全体の 1/5 以下の場合、冷水や氷水による冷却が有効である。冷水につけるか清潔な冷たいタオルで冷やすか、リベノール冷湿布包帯をしてもよい。冷却水に塩化ベンゼトニウム（逆性セッケン）の 1000 倍液を用いれば、感染防止になる。

重傷

火傷面に付着した衣類はその周辺で切り抜き、医師の処置を待つこと。火傷面を消毒ガーゼで保護するとよい。広範囲火傷の患者は、ショック状態に陥るので、清潔なシーツやタオルでおおい毛布にくるんで保温し、病院に急送すること。体面積の 1/3 以上の火傷は大変危険である。重傷の場合多量の水を欲するので、水を与える方がショックを緩和できることとなる。患者に意識があり内臓に損傷のない時は、お茶等を与えておく。酒類は絶対にいけない。

衣類に火が付いたら

すぐ横に寝かせて、毛布等で体を包みもみ消すようにする。自分の衣類に火が付いたときは、寝ころんでもみ消しながら大声を出して誰かを呼ぶこと。驚いて走り回ってはいけない。

<注意事項>

火傷面に油剤を使用しない。ガーゼを用い、火傷面に繊維が付くようなものは用いない。火傷面に付着したものは取らない。水泡は破らず、医師にまかせ、傷口のある時は医師にかかることが大切である。

火傷の程度

第1度 皮膚が赤みを帯びていてヒリヒリ痛む程度

第2度 水泡が生じる程度

第3度 さらに進んで黒褐色となり組織が死滅する程度

火傷した部位の皮膚を傷つけないように対処すること。